

# SGHを通じた カリキュラム・マネジメントの試み



2018.6.29

神戸大学附属中等教育学校

勝山元照（副校長：研究担当）

岩見理華（指導教諭：研究部主事）

# 学校概要

- ▶ 2009年 発足（現在10年目：卒業生4回）  
神戸大学附属学校園 の再編過程で誕生
- ▶ 中等教育学校（完全中高一貫） \*生徒850 専任教員55  
「グローバルキャリア人」育成：中高一貫カリキュラム
- ▶ 研究開発の取組（カリキュラム・マネジメントの原資）
  - ①地歴科研究開発学校 「地理総合」「歴史総合」
  - ②ユネスコスクール：2014～（ESD大賞高等学校賞）
  - ③SGH指定：2015～

# はじめに

- ▶ 本校の教育目標「グローバルキャリア人の育成」
- ▶ SGH指定（2015～） \* 次期学習指導要領をめぐる議論  
→ 「カリキュラム充実のチャンス」
  - ① 「教育課程の全領域を通しての見直し」  
→ 教科・総合・特別活動等の有機的結合の課題  
「授業研究会」（全教科）と連動
  - ② 「地球の安全保障」  
「SDGs達成に向けてのESD推進」の視点

# 1-1 コア：課題研究(=卒業研究)

➡ 6年一貫「Kobeプロジェクト」 (総合学習)

「リサーチリテラシー」の本格的育成

＜前期:中学＞ 1.2年「探究入門」 3年「課題学習」

グループ&レポート

＜後期:高校＞ 4年「卒業研究入門」 個人

5.6年「卒業研究」

個人論文:18,000字+プレゼン+英文要旨

課題意識の涵養とリサーチリテラシーの育成

# 1 - 2 研究主題と4領域

## 主題

「神戸から発信する『地球の安全保障』への提言』

## 研究領域

- A 震災・復興とリスクマネジメント
- B 国際都市「神戸」と世界の文化
- C 提言：国際紛争・対立から平和・協力へ
- D グローバルサイエンスと拠点都市「神戸」

→ さらに小テーマに絞って個人研究



# 1-3 課題研究成果発表



## 優秀作品例

- 「学校におけるこれからの防災教育のありかた－双方向的な防災教育は生徒の防災意識を高めることができるのか－」
- 「台湾における日本の植民地教育の考察  
－日本統治下の公学校修身書(台湾)と尋常小学修身書(日本)を比較して－」
- 「建築素材における低圧縮型木片コンクリートが与える未使用木材利用の可能性」 ○・「若者の投票率を上げるための政治教育とは  
－模擬選挙を用いた実験の投票率から見る情報刺激の効果－」

# 1-4 課題研究の評価（例）

## 2 . 評価

### 1. 問題提起、研究手法、結論が首尾一貫しているか

#### (1)問題提起

- A 卒業論文で解決する問いが明確であり、その問いがどのような社会的意義もしくは学問的意義につながっているかが明確に示されている。
- B 卒業論文で解決する問いが明確である。
- C 卒業論文で解決する問いが何なのか明確にはなっていない。

#### (2)研究内容と題目の一致

- A 研究内容を必要十分に要約した題目となっている。
- B 研究内容を反映している題目であるが、実際の研究内容よりも広い（もしくは狭い）内容を指す題目となっている。
- C 研究内容をほとんど反映しない題目となっている。



# 1-5 「課題研究」成果と課題

## 成果

- ◎ 4 研究領域の設定によりテーマがしぼられゼミ指導が容易に
- ◎ 研究計画，評価規準指示による教員指導体制格差の縮小
- ◎ 優秀論文の増加（理系+文系）

## 課題

- △ 文科系論文の質の向上
- △ 課題研究指導時間の確保
- △ 評価ルーブリック & 優秀論文決定のための検討会、選考基準



## 2-1 課題研究と体験のブリッジ

「グローバル・アクション・プログラム」(GAP)

### 特別活動, 課外活動の分野

- A 教養面からアプローチするプログラム
- B 国際交流体験等→課題認識を育成するプログラム
- C 明確な課題認識→認識を深化させるプログラム
  - C 1 課題研究アクションプログラム：国内
  - C 2 課題研究アクションプログラム：海外

## 2-2 認識の深化：国内研修

課題研究テーマとプログラムが直結

「震災・復興とリスクマネジメント」

神戸・宮城交流プログラム（DR3）

「提言：国際紛争・対立から  
平和・協力へ」

全国高校模擬国連（「食料安全保障」「移民」）

全国高校英語ディベート（「PKO派遣」）

「グローバルサイエンス」

ジオパーク交流プログラム（GEP）



## 2-3 認識の深化：海外研修

「国際都市神戸と世界の文化」

Asian Student Exchange Program (ASEP)台湾

「提言：国際紛争・対立から平和・協力へ」

ベトナム，カンボジア研修

「グローバルサイエンスと

拠点都市『神戸』」

英ケンブリッジ，米シアトル研修



# 2-4 「GAP」の成果と課題

## 成果

- ◎ 交流協定（3校）締結による恒常的交流の実現
- ◎ 体験による主体的行動の獲得、行動の変容
- ◎ 学習成果の共有・発信（後輩、地域）



## 課題

- △ 欧米志向
- △ 交流の質 「課題に直結した研修計画の実施」

# 3 -1 課題研究と教科・体験のブリッジ

## ➡教科横断的「学習領域」の設置

### 課題（卒業）研究の前提

① 3年「ESD」（「社会」の一部：合科的）

「水」「気候変動」「フェアトレード」等

② 4年「国際理解」（「現代社会」の一部）

仮想的実践（模擬国連方式）

## ➡ユネスコスクールの理念との共通性



# 3-2 SDG s (持続開発目標) 達成に向けたESDの推進



3 -3

# 教科横断的学習アートマイル



# 4-1 教科・授業改革とSGH

## SGHが提起するもの

グローバル人材育成のための教科横断型  
体系的カリキュラムの開発（全体の変革）

汎用的能力として

- ①教科「教育目標」の再生（過程）
- ②教科領域の設定
- ③授業改革 協同&高度な対話力

## 4 - 2 教科間協力による学習

### 教科の壁を超える「難題」への挑戦 同僚性の構築

- 英・社・食「仮想水, フードロス」
- 保体・家・食「ヘルスプロモーション」
- 英・美「アートマイル(国際協働壁画制作)」
- 理・公「気候変動」「生物多様性」
- 英・地歴「ホロコースト&EUの成立」
- 理・英「防災・減災・復興」
- 体・地歴「地球的課題とオリンピック」等

## 4-3 教科の探究的学習

### ▶ 高校次期学習指導要領

教師主導の「教育内容」主軸から

生徒が獲得すべき「資質・能力」主軸へ

### ▶ 本校: 高校地歴「地理総合」「歴史総合」

講義式「知識詰め込み型」の授業から

主体的に学ぶ「思考力育成型」の授業

＊ 他の教科・科目への普及

## 4-4 「主体的・対話的で深い学び」

- ➡ (ディープ<sup>9</sup> アクティブラーニング  
=「主体的・対話的で、深い学び」

**多田孝志 『グローバル時代の対話型授業の研究』**

- ➡ 本校：小集団学習（協同学習）の伝統

→ **後期課程に適用する際の「難題」**

- ・ 技法主義（信仰）では上手くいかない
- ・ 教科の特性を把握しないと上手くいかない
- ・ 中高生では「協同」のポイントが違う

\* 後期課程への拡がり：「問い」の質が重要

# 4-5 「教科の取組」成果と課題

## 成果

- ◎ 学力論の理解が深化し，授業研究会の内容が充実
- ◎ 後期課程（高校）でもアクティブラーニングが前進
- ◎ ESD教材が充実
- ◎ 課題研究との相乗効果

## 課題

- ◎ 授業評価のさらなる改善



# 5-1 神戸大学との一体的運営

- 大学教員の指導助言による研究開発と検証
- 「課題研究」支援, アドバイザー-院生派遣
- 「ESD」についての共同研究
- 「社会基礎学 連続リレー講座」
- 「ジャンモネCOEミニシンポジウム」
- 「サイエンス・アゴラ」
- 経営学部, 工学部との連携授業他



# 6-1 SGHの評価と検証

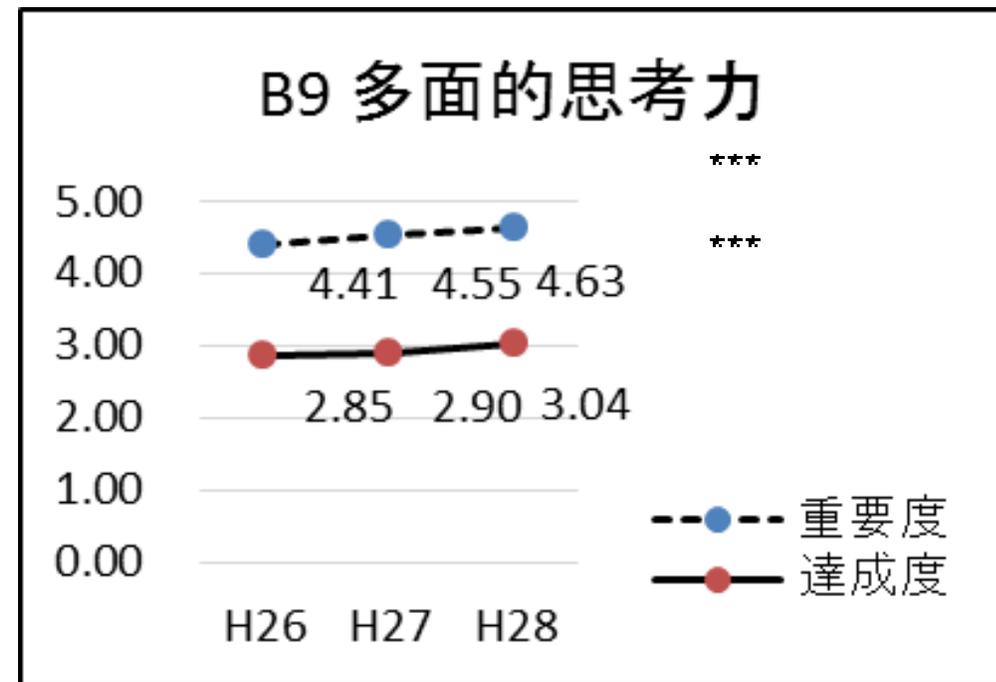
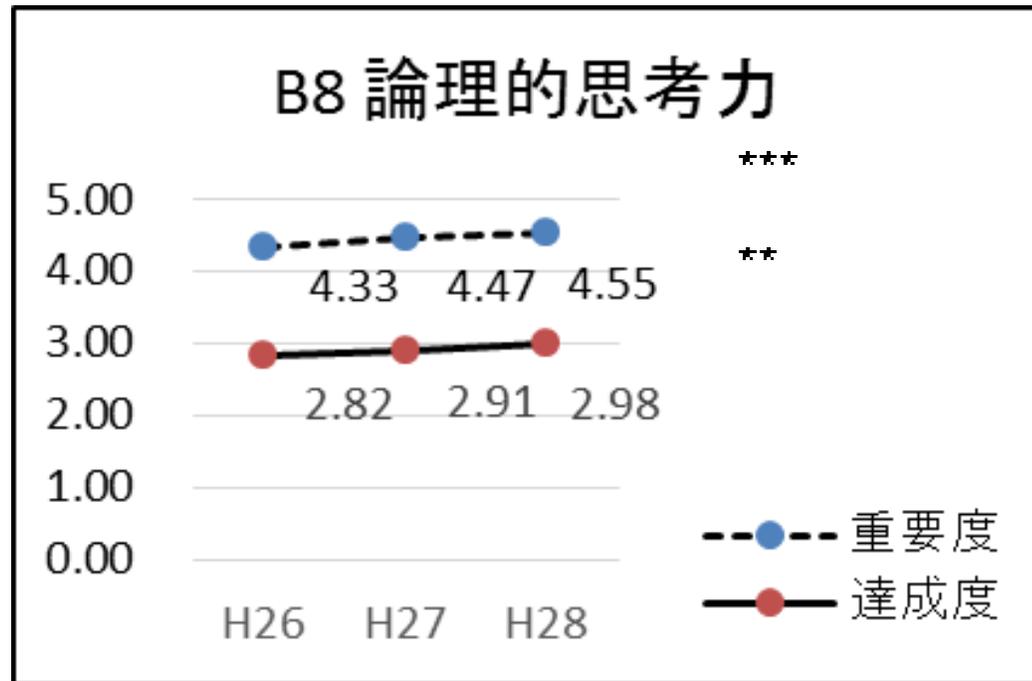
A 知識力	1	世界に関する知識	D 対応力	14	創造力
	2	日本に関する知識		15	課題解決力
	3	自然科学に関する知識		16	課題発見力
B 基盤力	4	英語力	E 経験力	17	探究力
	5	英語以外の外国語能力		18	想像力
	6	情報分析力		19	国内での異文化交流体験
C 人間力	7	プレゼンテーション力	20	海外での実体験	
	8	論理的思考力	21	外国人の友人	
	9	多面的思考力	22	国内フィールドワーク経験	
	10	自己主張	23	ボランティア経験	
	11	包容力	24	世界貢献	
	12	責任感			
	13	リーダーシップ			

神戸大石川研究室の監修により, H26年度より継続実施

24観点×2項目(重要度・達成度)調査+グローバル人材100字定義

# 6-2 SGHの評価と検証

## B 基盤能力

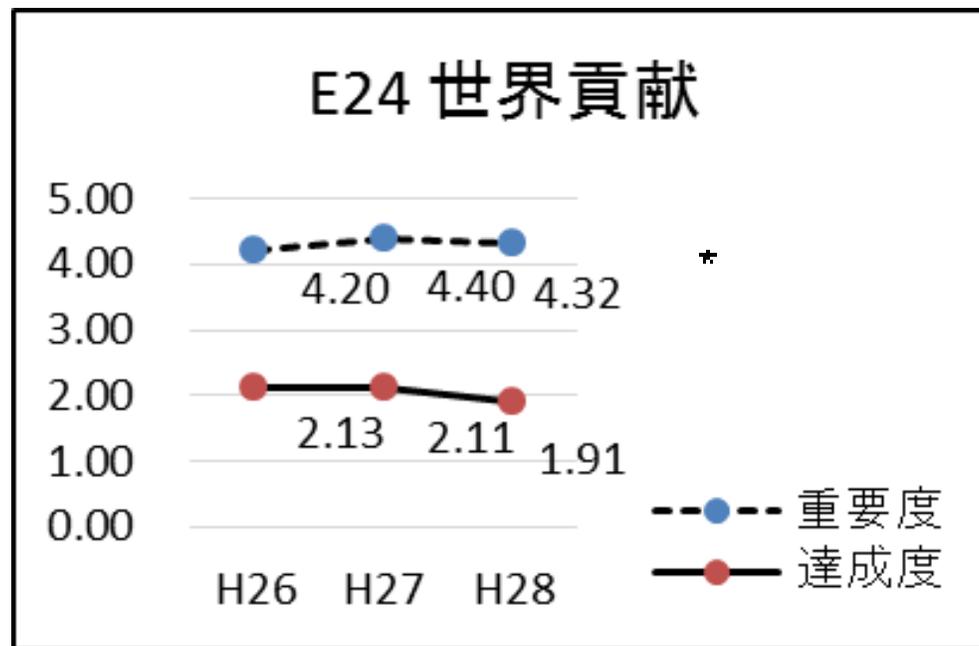
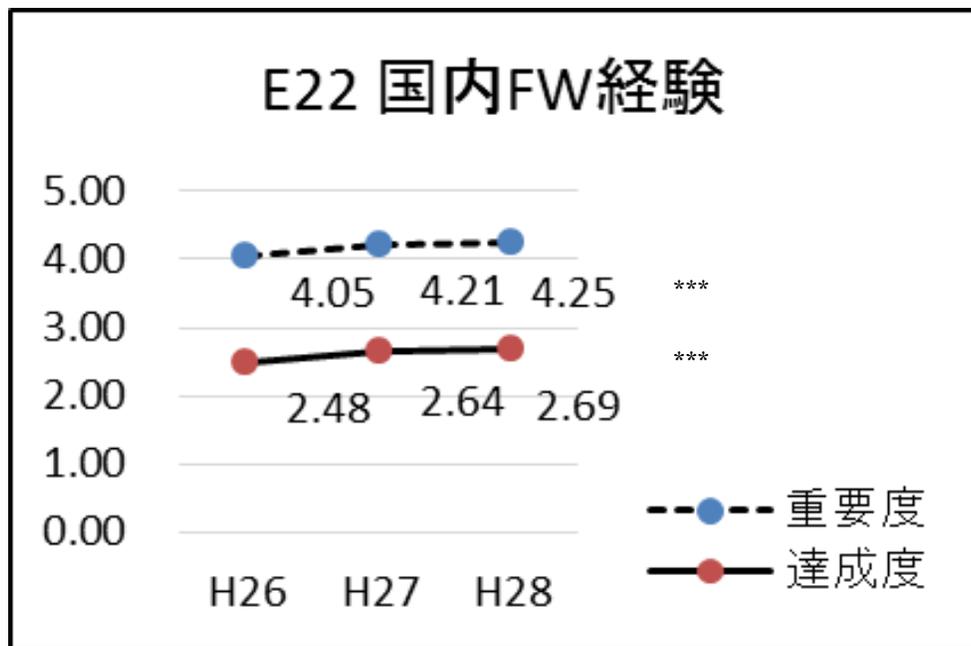


\*\* :  $p < .01$     \*\*\* :  $p < .001$

平成26年度から28年度までの「重要度」と「達成度」の平均値の比較

# 6-2 SGHの評価と検証

## E 経験力

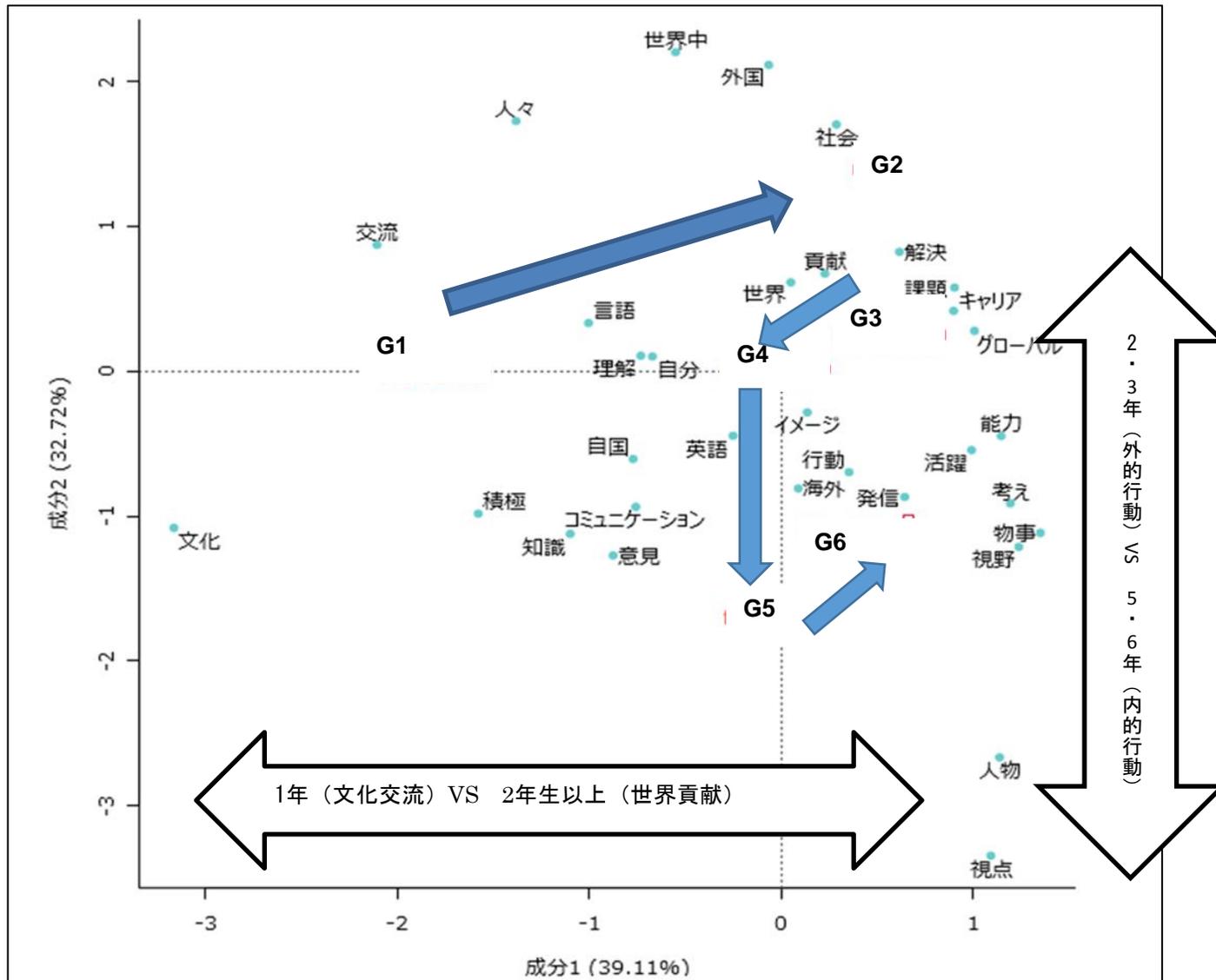


\*:  $p < .05$  \*\*:  $p < .01$  \*\*\*:  $p < .001$

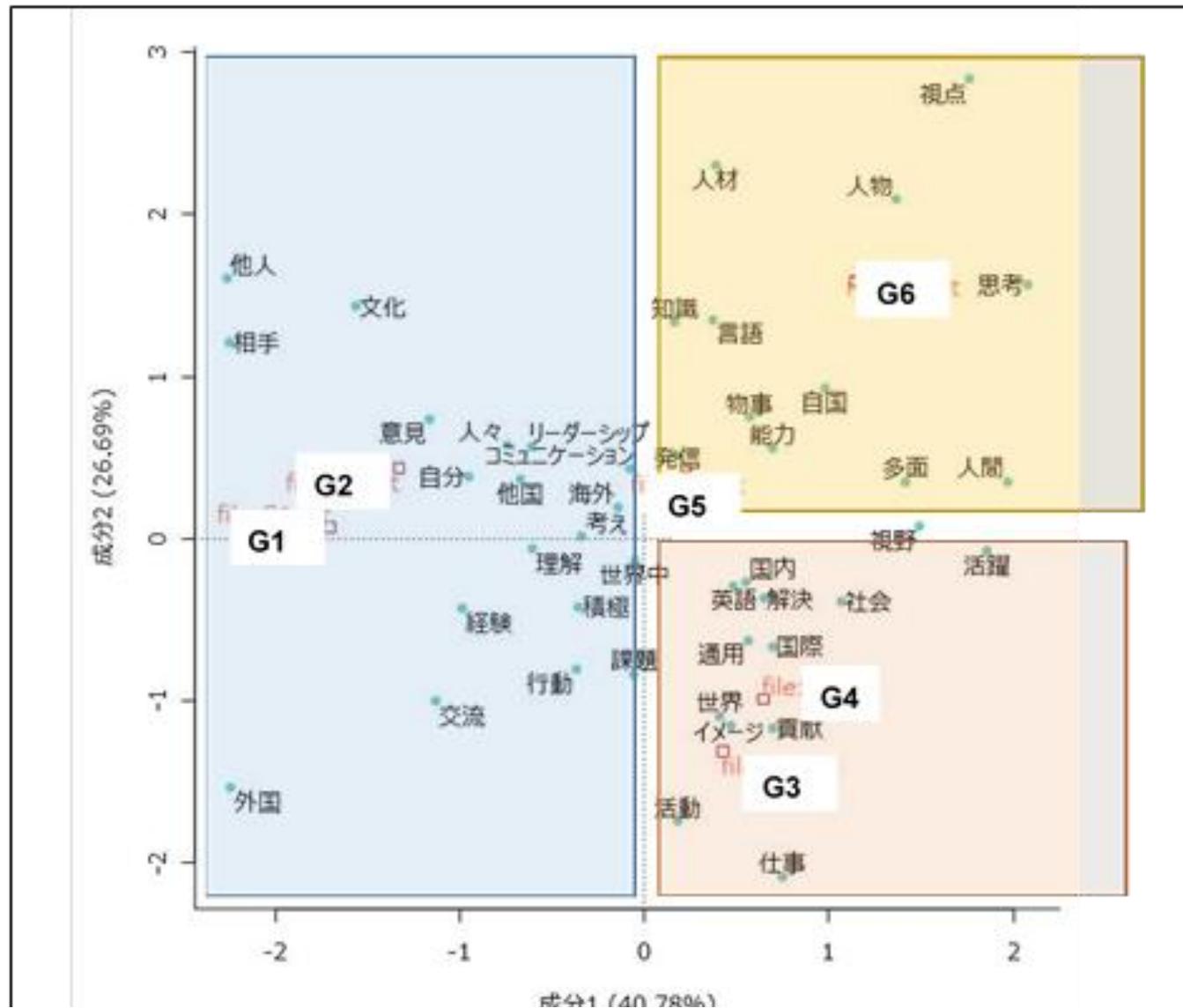
平成26年度から28年度までの「重要度」と「達成度」の平均値の比較

## 6-3 「グローバルキャリア人」定義に関する 各学年の出現頻度数10位までの形態素

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	H27	H28										
1位	世界	自分	世界									
2位	自分	世界	自分									
3位	文化	外国	外国	文化	解決	解決	意見	英語	意見	意見	意見	視点
4位	意見	意見	解決	意見	英語	外国	英語	貢献	英語	解決	視野	英語
5位	英語	文化	英語	英語	考え	英語	外国	解決	考え	物事	解決	物事
6位	外国	英語	考え	外国	外国	行動	行動	能力	文化	文化	行動	解決
7位	交流	経験	意見	理解	意見	意見	視野	考え	視点	英語	人物	知識
8位	知識	解決	貢献	考え	貢献	物事	考え	外国	物事	知識	考え	意見
9位	他国	行動	行動	行動	能力	課題	解決	活躍	行動	視野	活躍	文化
10位	解決	知識	人々	海外	活躍	視野	物事	理解	解決	海外	知識	活躍

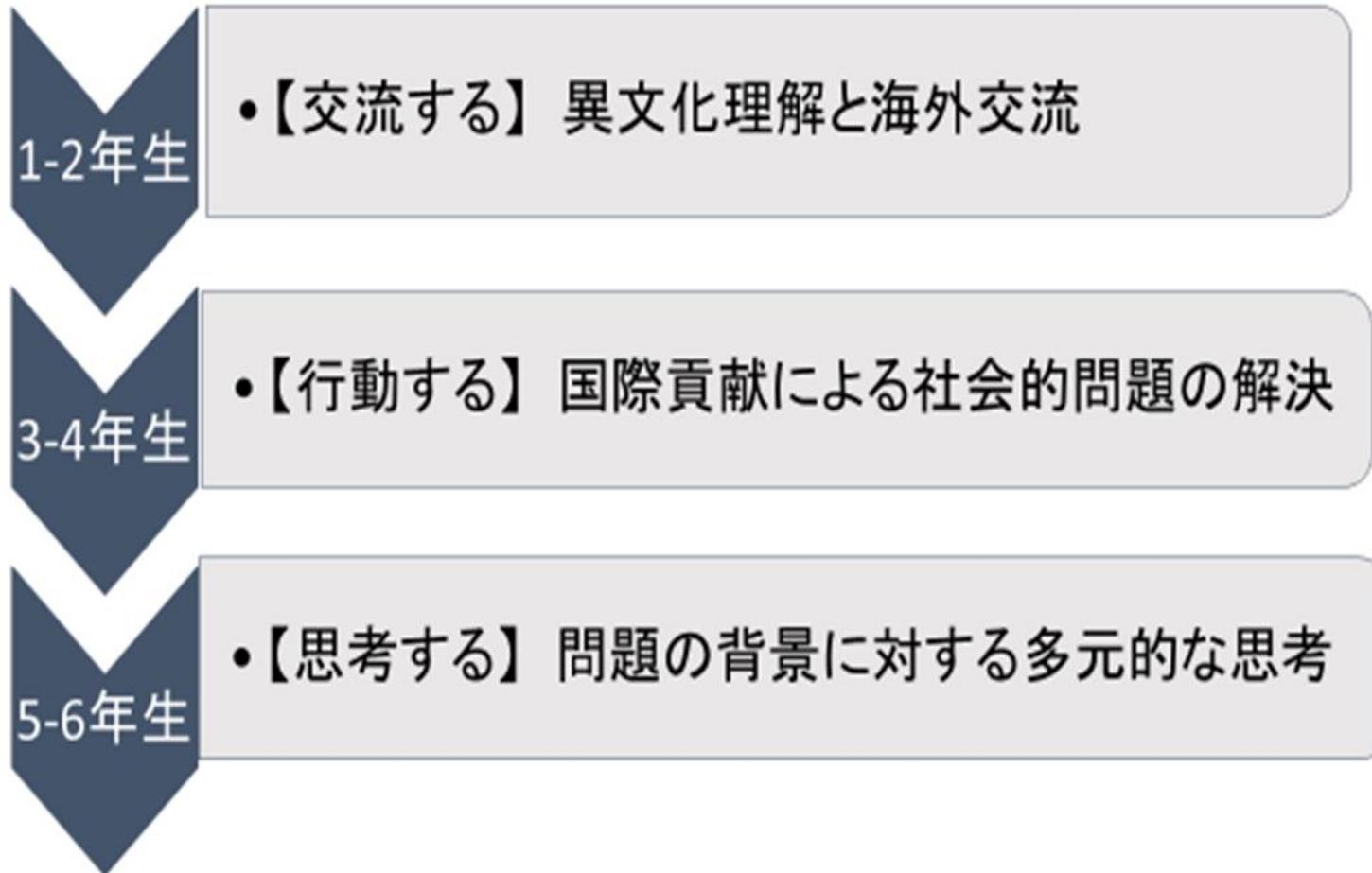


6\_4「グローバルキャリア人」定義についての自由記述における学年別頻出単語対応分析による散布図(平成27年度)



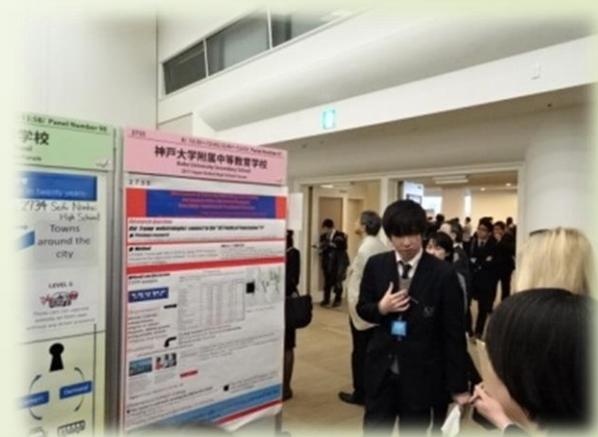
6\_5「グローバルキャリア人」定義についての自由記述における学年別頻出単語対応分析による散布図(平成28年度)

## 6-4 「グローバルキャリア人」の定義にみられる意識の発達過程モデル



## 6-5 SGHとグローバル意識

- SGH実践は「グローバル意識」向上に大きく貢献
- SGH学習と課題研究の相乗効果の実感度  
(教員の77% 生徒の57%)
- 課題研究の水準と教科学力(高い相関)
- 批判的思考力とSGHの取組(高い相関)



# まとめ

- ➡ **カリキュラム・マネジメントの焦点**
- ➡ **SGH実践の成果**

**次期学習指導要領の先取り**

**カリキュラムの構造的把握が必要**

- ➡ **「主体的・対話的で深い学び」**

**「教科横断的探究学習」**

**教師自身の課題**

